

## 対馬暖流は本道沿岸寄りを北上 対馬暖流の流量は平年の1割増し 今後の沿岸水温は平年よりも高めで推移

2021年11月下旬から12月上旬に実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。  
対馬暖流は、渡島半島の遙か西方から本道へ接近し、一部が津軽海峡へ流入し、他の部分が沿岸寄りを北上しています（図1c）。対馬暖流の北上流量は約1.5Sv（1Sv=10<sup>6</sup>m<sup>3</sup>/s）で、平年の1割増となっています（12月流量の平年値は1.3Sv）。また、最近は積丹半島沖において暖水渦の形成がよくみられますが、今回の観測では暖水渦はみられませんでした。  
50m深水温は、松前沖で14～15℃となっており、平年よりも3～4℃高くなっています（図1a、b）。例年、対馬暖流は日本海を2～3の分枝に分かれ北上し、青森沖で1本に収束しますが、その収束域が今回の観測では北海道沖になっており、このことが松前沖の水温を平年よりも高めた要因と考えます。  
余市前浜水温は12月上旬では「かなり高い」ですが（※1）、12月中旬から1月上旬の気温は平年よりも高い予報となっていますので（※2）、沿岸水温は今後も平年よりも高めで推移することが予想されます。

- ※1 <https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyuu/suion/index.html>  
※2 気象庁HPより1ヶ月予報：<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>



余市前浜水温 気象庁1ヶ月予報

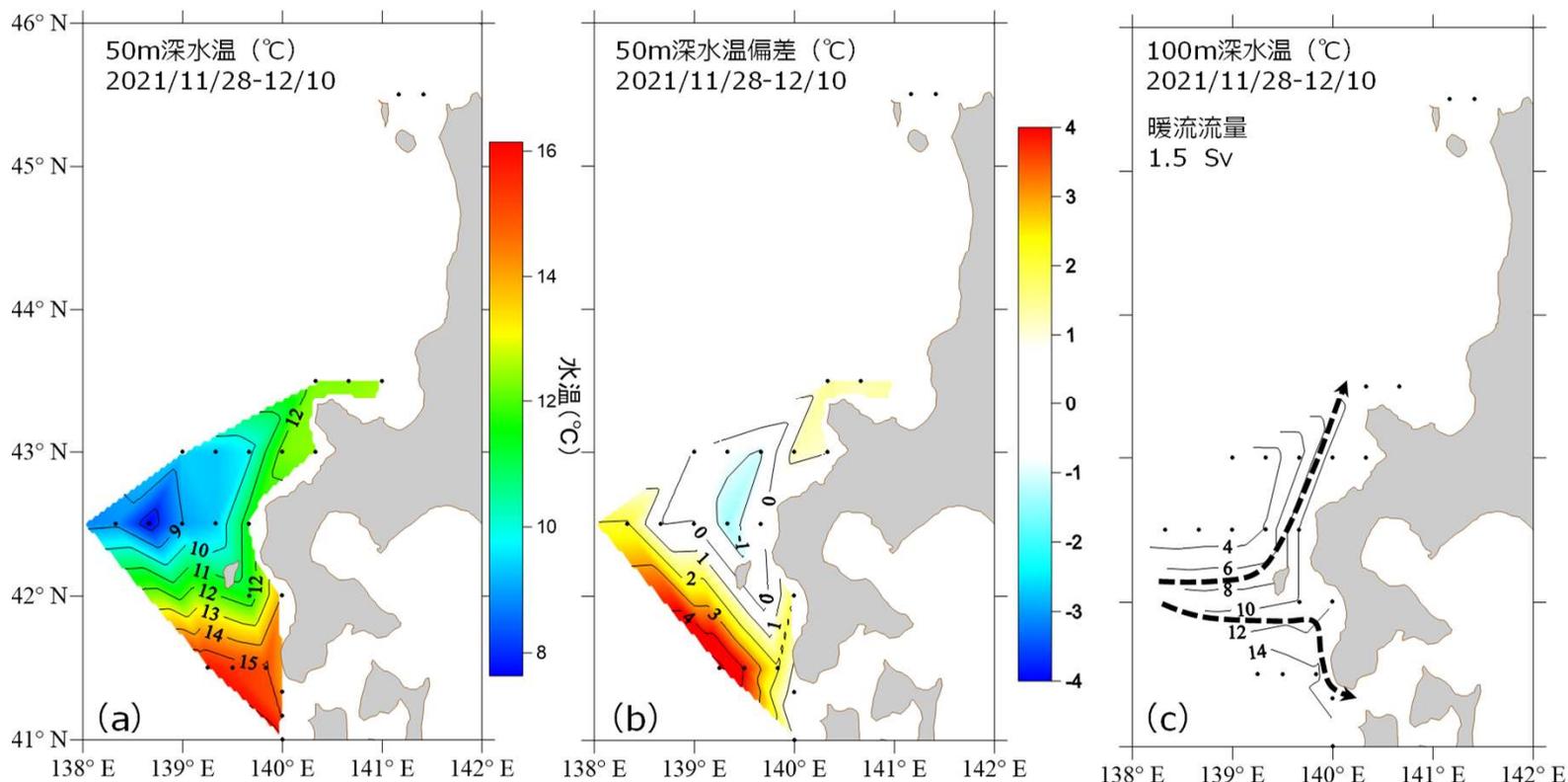


図1 2021年11月下旬から12月上旬における (a) 50m深水温 (b) 50m深水温偏差の水平分布、(c) 100m深水温の水平分布と対馬暖流の流路（矢印）。水温偏差は過去30年（1989年～2018年）の平均値から算出。流量の単位はSv（=1×10<sup>6</sup>m<sup>3</sup>/s）。